

スタディサプリ for 学習塾

実際に導入した塾だから分かる！

スタディサプリ『導入ウラ話』

導入にあたり
大変だった
ことって？

生徒や
保護者の
リアクションは？

保護者への
説明は
どう行ったの？

料金は
どう設定した？



本資料の情報は、すべて取材した時点でのものになります。

CASE1_ 郡山俊英
スクール

勉強が苦手な生徒へのフォロー

『スタディサプリ』を通して **授業と宿題を連動**

現在の指導スタイルになる前は、「授業は学校教材」「宿題は『スタディサプリ』」というように完全に分けて指導していました。授業で学んだことを宿題の講義動画で補強することを考えていたのですが、勉強が苦手な生徒にとっては最初のインプットが不十分な状態で初めて講義動画を目にするので、理解が追いついていないケースもありました。もっと『スタディサプリ』の効果を最大化させることができないか？というのはずっと苦慮していたところだったのです。そこから、私達講師が『スタディサプリ』の講義動画を予習した上でその指導ポイントを踏襲した授業を行い、宿題で同じ箇所の『スタディサプリ』を出すというスタイルに切り替えました。これが大きなブレイクスルーだったように感じます。『スタディサプリ』を通して授業と宿題を連動させたことで、十分に理解した状態で講義動画を視聴できるため、2倍速で視聴するなど、工夫して取り組む生徒も見受けられます。

CASE2_ ユニバー
ハイスクール

スタディサプリを学校ではなく塾で利用する優位性の模索

寄り添い、**弱点にフォーカスした個別指導ができる**

生徒の中には、すでに学校で『スタディサプリ』を利用しているというケースも多く、塾用のアカウントを使う意味について考えさせられました。塾用のアカウントを使う意味は、生徒一人ひとりにより寄り添い、弱点にフォーカスした個別指導ができるということです。学校で『スタディサプリ』を導入されている場合でも、ここまでの個別フォローは現実的に難しいかと思いますが、そこができるのが塾の強みです。どの単元で何問間違えたのかといった細かい粒度のログをもとに生徒への指導やカリキュラムを都度チューニングしていきます。実際の管理システム画面を生徒に見せながら、塾用のアカウントを使うメリットを伝えました。

CASE3_ 一英塾

すでに学校でスタディサプリを利用していた生徒への説明

講師が介在することに、**塾ならではの価値**がある

一部の生徒はすでに学校で『スタディサプリ』を利用していました。中には、過去にたくさんの宿題を出されて苦労した経験や、自分の知りたい内容の講義動画が見つけられなかったりした経験から、ポジティブなイメージを持っていない生徒がいたのも事実です。そんな生徒の不安を解消するために、『スタディサプリ』の便利な使い方を教えたり、一緒に講義動画を探したりと、丁寧な対応を心がけました。使い方がわからない・使い切れていない生徒と『スタディサプリ』の間に講師が介在することに、塾ならではの価値があると考えています。

CASE1_ 郡山俊英
スクール

知名度の高いサービスが安心の決め手に

『スタディサプリ』は知名度の高い教材なので、安心して学んでいただいていると感じます。生身の人間による授業ではなく、映像授業を受けるということに対して不安を覚える方もいるかと思いますが、当塾で授業を行うのはあくまで塾の講師。講義動画は授業ではなく「教材」の一つと位置づけています。デジタルのICT教材のメリットと、生徒の学習進捗や苦手箇所を把握した講師によるアナログな指導のメリットを融合した指導が大切だと考えています。

CASE2_ ユニバー
ハイスクール

生徒から動画に対する 評判の声 続々

生徒からは「講義動画の長さがちょうどいい」「無理なく学習のサイクルを回せる」「くり返し視聴できるので、英文が読めるようになった」という声もあがっています。これといった不満もなく、日常的に使いこなせている様子からも、少しずつ浸透していると実感しています。また、保護者からも特段反発もなく、教材の一つとして受け入れていただいています。

CASE3_ 一英塾

馴染みのあるサービスで 導入もスムーズに

もともと学校やご家庭で『スタディサプリ』を使っていた生徒も多くスムーズな導入ができました。生徒や保護者にとって馴染みのある教材ということもあり、特段リアクションもなく、自然に受け入れていただいています。

CASE1_ 郡山俊英
スクールコンテンツや費用対効果の良さを **ロジカルかつ講師自身の言葉で丁寧に** 説明

入塾時の初回面談では、大手予備校の授業と比べて遜色ない、むしろ日本を代表する講師の授業が受けられるという意味では費用対効果に優れたICT教材であるとお伝えしています。

普段から実際に授業を行う私を含めた講師が、『スタディサプリ』の講義動画を視聴した上で、その良さを説明しているので保護者にも納得していただいていると思います。

CASE2_ ユニバー
ハイスクールあえて「講義動画」ということはアピールせず 塾全体の
指導や面倒見の良さの中に講義動画が含まれるという位置付け で説明

『スタディサプリ』を導入する際に、教材が変わることは説明しましたが、あえて「講義動画」というワードをアピールしませんでした。というのも、ICT教材は講義動画だけを指すのではなく、「確認テスト」や「学習管理システム」なども含めたそのシステムを指す言葉。あくまで、塾全体の指導や面倒見の良さの中に講義動画が含まれるという位置付けで保護者に伝えて、納得していただきました。

CASE3_ 一英塾

「あくまでも講師が教えるスタイルはそのまま、
プラスアルファの教材としてスタディサプリ」という伝え方

『スタディサプリ』の導入にあたって、保護者にはメールやお手紙でご案内しました。ただ、伝え方には注意しました。というのも、「講義動画がメインになる」とお伝えすると誤解を生みかねないからです。授業を行うのはあくまで講師であって、家庭での学習定着を効率よく進められるプラスアルファの教材として『スタディサプリ』を導入するということを説明。塾ならではの細やかさや個別フォローという価値は変わらず、むしろ一層強化するというこちらの意図をきちんとお伝えした所、皆様ご理解いただけました。

CASE1_ 郡山俊英
スクール試行錯誤しながらの活用が予想されたため、**最低限の料金設定に**

今年度（2022年3月末まで）にあたっては、一律11,000円（税込）でご案内しています。内訳は生徒1人あたりの塾向け販売価格5,500円（税込）※にテキストの印刷費などの諸経費を加えています。また、目には見えませんが、講師がライブ授業を行う前に講義動画を視聴するため、その作業を見積もって料金設定を行いました。導入初年度ということもあって、試行錯誤しながらの活用が予想されたため、最低限の料金設定にしました。

※2021年度に行った先行導入の塾300社様限定のキャンペーン価格です。

2022年度以降の価格はスタディサプリ塾向けサービスホームページの最新の情報をご参照下さい。

CASE2_ ユニバー
ハイスクール**諸経費に含む形に**

受講にかかる費用として、受講料とは別に毎月4,000円の諸経費をいただいております、『スタディサプリ』をはじめとするICT教材の利用料はこの諸経費に含む形にしています。

CASE3_ 一英塾

受講料に含む形に

授業で使う市販の参考書や問題集は各自用意していただきますが、『スタディサプリ』に関しては中学生、高校生問わず、今年度は受講料に含む形にしています。

導入前の課題や導入後の変化などについて気になる方

各塾の導入事例インタビューはこちら

CASE1_ 郡山俊英
スクール

事例インタビューのURL

<https://juku.teachers.studysapuri.jp/case/1>

CASE2_ ユニバー
ハイスクール

事例インタビューのURL

<https://juku.teachers.studysapuri.jp/case/2>

CASE3_ 一英塾

事例インタビューのURL

<https://juku.teachers.studysapuri.jp/case/3>

スタディサプリ for 学習塾

※本資料に記載されている情報は、2023年6月21日時点の情報です。サービス内容等については変更になることがございますので、詳しくはスタディサプリのホームページにてご確認ください。
※掲載している塾の情報は、すべて取材した時点でのものになります。